福島原発事故を忘れない！3.11 狛江駅前集会

当日のリレートークと展示した一部写真等をホームページ上で掲載します。

トークはその場では時間が足りず、端折った部分も本人の了解を得て掲載しています。話し言葉から文章風に変えているところもあります。

（連絡責任者 西尾真人）

狛江駅前をご通行中の皆さん、狛江駅周辺の皆さん。私たちは「原発と気候危機を考える狛江の会」です。「狛江の放射能を測る会」から昨年の年末に名称を変え、気候危機にも取り組むことにしました。１時間ほど「福島原発事故を忘れない！狛江駅前集会」を開催し、市民のリレートークを行います。

私たちの会は福島第一原発の事故を受け、原発のない社会とするための勉強会として２０１２年２月に発足しました。勉強会といっても机上だけでなく、狛江市内４２カ所の空間線量を毎月測定してきました。また、毎年福島被災地に訪問して、いわき市で活動している避難者団体、被災者団体、支援団体と交流し、被災地を回り、見て、聞いて、測ってきました。その結果を私たちの率直な印象・感想を含めて狛江市民の皆さんに、色々な機会を通してお伝えしてきました。本日の集会でも写真等をお持ちしました。是非、ご覧になっていただきたいと思います。

皆さん、3.11 前の政府や電力会社は原発のメルトダウン事故は１０万年、１００万年に１回起きるかどうかだと声高に叫び、チェルノブイリ事故が起きても、あれはソビエト型だからだ、運転員の技術不足だ、日本ではありえないなどとうそぶいていました。しかし、日本で事故が起きたのです。原発が建設されてわずか５０年の間にアメリカのスリーマイル島（1979）、ソ連のチェルノブイリ（1986）、そして福島第一原発（2011）と３度も過酷事故は起きたのです。福島原発事故は２号機の格納容器の爆発寸前にベントラインが壊れて爆発を免れるなど、偶然が重なり最小限の事故規模で終わったと言われています。風向きも当時は海方向に流れ、放射能の大半が海に行きました。それでも、汚染は陸地の広い範囲を覆い、避難者は当初２０万人近くにのぼり、現在でも８万人の方が故郷に帰っていません。帰還解除の基準は放射線管理者と同じ年 20mSv に引き上げられましたが、いまだに帰還困難区域は２３区の半分の面積です。

原発は事故が起きる。起きれば、これまで経験したことの無い、けた違いの空間的・時間的被害を被るのです。

廃炉作業も遅々として進んでいません。溶けた燃料デブリの所在さえ１号機は定かに分かっていません。それがこれから２０年～３０年で取り出し完了できるのでしょうか。

ALPS 処理後の汚染水が来年にも海洋放出されようとしています。汚染水がたまり続ける原因となっている地下水を止める遮水壁の手立てがありながら金がかかると見送った結果が、今でも１日に１５０トンの汚染水をため続けることになりました。そうした政府・東電の失敗を被災者に負わせようというのが、今回の処理汚染水の海洋放出です。漁業者との書面による確認書さえ反故にしました。放出すれば福島漁業の壊滅につながるでしょう。陸上保管・空冷への転換など他に取るべき手立ても提案されているのに、一顧だにしません。

原発事故の深刻さ、政府・東電の無責任さ、被災者への冷たい対応など１時間では語りつくせませんが、リレートーク、聞いていただければと思います。

最初に会員の須貝さんから福島原発事故の奇跡について話していただきます。

（会員 須貝光典）

2022 年 3 月 11 日-福島第一原発の過酷事故

狛江駅をご利用のみなさん、そしてご近所の皆さん、私は【原発と気候危機を考える狛江の会】の会員の一人で、和泉本町１丁目に住んでいます、須貝といいます。

この場をお借りして、私は、11 年前の福島第一原発の過酷事故を振り返るなかで、当時日本がどのような危機に直面していたか、そしていくつもの奇跡的なことがあって初めて、今の日本があるということを知ってもらって、危険な原発の廃止を訴えたいと思います。

今日は、アメリカが事故当初から一番心配していた福島第一の「４号機」で起こった奇跡と、もう一つ、渡辺謙や佐藤浩市が出演した、『Fukushima 50』で、決死隊と言われる福島第一の職員が活躍した「免振重要棟」の奇跡の話に絞ります。

初めに、原発過酷事故のおおまかな経過を言っておきます。　なお、４号機は定期点検で稼働していませんでしたが、使用済み核燃料プールには使用済み、未使用を含め、1,535 体の燃料棒がありました。１～４号機の状況は、それぞれ別々ですが、大まかにいうと、まず、３月 11 日の 14:46 分に地震が発生し、スクラムという原子炉の緊急停止動作がなされました、幸いなことに、１～３号機の全部が自動停止しました。　しかし、原発は止まっても燃料棒が高温なため、それを冷却しなければならず、その冷却がある程度自動でできた原子炉も、できなかったものもあり、その条件が１～３号機がメルトダウンするまでの時間の差になります。

結局は、地震から約 50 分後の 15:37 分ごろ津波来襲で、非常用ディーゼル発電機やバッテリー、電源盤等の故障ですべての電源を失ったことにより、原子炉内の燃料棒の冷却ができなくなり、水が蒸発してしまい、燃料棒が露出し、燃料棒から水素が発生して(燃料棒中のペレット被覆ジルコニウム：1855°C 溶解、通常運転 1,000°C)、その水素が空気と混ざって引火し、１号機は地震の翌日の 12 日に、３号機はその２日後の 14 日に水素爆発しました。定期点検中の４号機は３号機から流れてきた水素で 15 日に水素爆発を起こしました。２号機が水素爆発を起こさなかった理由は、１号機の爆発で建屋のパネルが開いて解放されていて、水素濃度が低かったからでしたが、ベントに失敗した２号機は最悪の放射能をまき散らしてしまいました。　なお、14 日から 15 日にかけて､2 号機の格納容器の圧力は７気圧以上だったのが急に 1.5 気圧に下がりましたが、今でも原因は不明です。２号機が、爆発したら、原発の半径 250Km は放射能で汚染されてしまったはずです。以上が大まかな経過です。

私がいろいろな本を読んで記録した「奇跡」と思われるものは、全部で 11 件ありますが、今日は「４号機にまつわる奇跡」と「「免震重要棟」にまつわる奇跡を紹介します。

まずは、４号機にまつわる２つの奇跡です。

当時、アメリカが一番恐れていたのは定期点検中の４号炉の使用済み核燃料プールにあった 1,535 体（使用済み１３３１体、未使用２０４体）の核燃料でした。このプールの水がなくなれば、燃料棒がメルトダウンしてしまい、膨大な量の放射能が大気中にばらまかれてしまいます。危機を免れたのは、２つの奇跡-ありえないような偶然-が重なったためでした。

１番目の奇跡：全電源喪失した後で、使用済み核燃料を冷却するのに必要だった水が、実は使用済み核燃料のプールの隣にある、原子炉ウェルと呼ばれる縦穴と、機器貯蔵プールに合わせて 1400 トン残されていました。ほぼ、使用済み核燃料プールの水と同じ量です。原子炉ウェルは、原子炉圧力容器の上蓋の真上にあり、核燃料を移動する時だけに水を張って使われるプールで、ここには、普通、水はありません。ところが、この水が奇跡的にあったのです。実はこの水は、事故発生４日前の３月７日に、本来は外部に抜き取られる予定だった水なのですが、水を抜くための工具を忘れたとかで、当日は水が抜けず、工事が遅れていました。工事がもし順調に行っていたら、地震の日に水は原子炉ウェルには残っておらず、当時の原子力委員会委員長の近藤俊介氏が作った「最悪シナリオ」通りになり、その後の日本は変わっていました。　これが一つ。そして、これは奇跡ではありませんが、幸運なことに、原子炉ウェル内の水は、プールゲートという、仕切り壁１枚を介して使用済燃料プールと隣り合っていて、使用済み燃料プールの水位が下がるとこの水が使用済み燃料プール流れ込む仕掛けになっていたのです。

４号機の奇跡はここで終わりません。二番目の奇跡があります。実は４号機のプールに流れ込んだ水もやがては蒸発してしまうものでした。しかし、これも奇跡的なことですが、４号基建屋の天井は、３月 15 日に水素爆発で、吹き飛んでいたのです。3 号機か

らパイプを伝って逆流してきた水素による爆発らしいのですが、この水素爆発で天井がなくなってため、3 月 22 日から、離れた場所から、50 メートルもの長いアームのついた大型コンクリートポンプ車によって、水を注入する作業ができるようになりました。東京消防庁もキリンと呼ばれる背の高い放水車で水を入れることができました。これらは本当に奇跡的なことだったと思います。工具を忘れた作業員には、「やるべき仕事をやらなかった」という理由で、国民栄誉賞を与えるべきです。

次は「免震重要棟」にまつわる奇跡です。

原発事故後の事故収束のために、全ての作業員が寝泊まりしていたのが「免震重要棟」でした。皆さん『Fukushima 50』という映画を観た方もいると思います。この建物は事故の８ヶ月前の 2010 年７月より運用が開始されていました。これがなくては「Fukushima 50」による原発事故の収束はあり得ませんでした。そしてこの「免震重要棟」は、2004 年 10 月 23 日の新潟県中越地方の地震がなかったら、作られていなかったはずのものでした。中越地方地震後に、柏崎刈羽原発の安全対策を練る中で作られた「免震重要棟」が皮肉なことに、今回役立ったわけです。もっとも、柏崎刈羽原発の事故対策費用が膨大だったので、福島第一原発の津波対策が遅れたという面もあるので、そのあたりは複雑です。

時間がないのでまとめます。

日本政府には、こんな何重もの奇跡は二度とないことを肝に命じ、現在稼動中の６基の原子炉の稼働停止と、休止中または定期点検中の 27 基の原発の再稼働をしないこと、そして、すみやかに脱原発政策を計画して、それを実行することを要求したいと思います。　終わります。

次は、中和泉にお住まいの石川さんに「浪江町請戸の漁師さんの壮絶な体験」という題でお話していただきます。

（会員 石川巌）

私もどうしても忘れることの出来ない体験がある。ここで報告して東電・国を告発したい。

① 福島第一原発の数キロ北は浪江町です。請戸という漁港・漁師町があります。　福島県沖の太平洋は親潮と黒潮がぶつかる豊かな漁場。常磐物と言われて評価が高い。そこの漁師さんの桜井悦守さん（2 才年上）と 1980 年代半ばから知り合いになった。請戸船主会会長。秋から冬にメス鮭まるまる一本を送ってもらい、自家製イクラをつくるのです。我が家の正月前の楽しみだった。

② 桜井さんは義理堅く、親切。盆・暮れに様々な海の幸を発泡スチロールの箱いっ

ぱい送ってきてくれた。ホッキ貝・カレイ・メバル・ホウボウ・・・。

③　ぜひ一度お会いしたいと思っていたところ、２００６年にやっとご自宅を訪ねる機会をもてました。請戸の海岸から 200 メートルあまりの穏やかな場所で、ご夫妻仲良く大歓迎してくれました。

④　そして２０１１年 3 月 11 日の地震・津波、真っ先に浪江はどうなった、桜井さんは無事か、気が気でない。だがテレビでも浪江の情報は少ない。

⑤　避難先の役場を介して桜井さんと連絡が取れたのは 5 月になってから。初めて被災の実態を知ることが出来た。大地震が来た・・波が引けば漁船は転覆する・・沖へ出て一夜を明かす。だが翌朝戻ると自宅は土台だけに。奥様（車椅子)、長男のお嫁さんは行方不明。

⑥　すぐに探そうとしたが放射能汚染で警戒区域に設定されたため入れず、1 か月後大規模捜索開始。二人の遺体発見。あまりにむごいので息子さんから“親父には見せらんねえ、見るな！”と対面を止められた。

　結局、目の前に被災地が広がっていながら、放射能汚染のため探しに入いれず、最後まで奥様の顔を見ることさえできなかった。すぐに捜索していれば、助けることが出来たかも知れないのです。実際に、うめき声をたよりに、がれきの下から救出された女性がいるのです。

⑦　桜井さんは電話口で訴えました。

「50 年連れ添ったかみさんと別れっときに、顔も見られない悲しみあっか？人間これ以上の苦しみあっか？」。

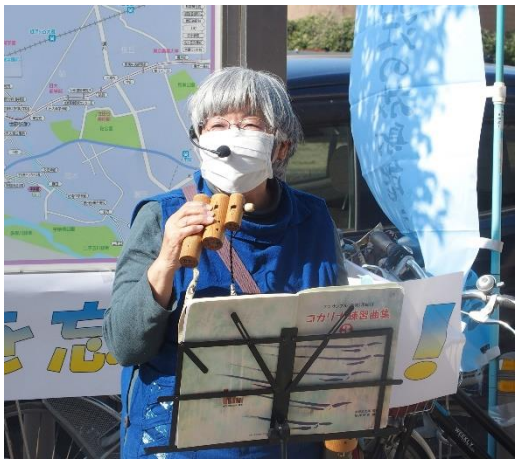
桜井さんの悲痛な叫びに私は言葉もありませんでした。今でも耳に残っている。

⑧　その上、大切な漁船を失うことにもなりました。　やはり港も警戒区域となっていたため舟を見回り出来ない間に、行方不明になってしまったのです。家族を亡くしてまで守った舟でした。

　桜井さんは“原発事故さえなければ”とつぶやきながら、東電に賠償を要求して頑張りました。

⑨　そうなんです。原発事故さえ起きなければ、原発さえなければ、こんな悲惨な思いをすることも、人生を狂わされることもなかったはずです。今も多くの人が苦しんでいます。

　東電と国はその原因を作ったものとして責任を果たさなければなりません。



次は新婦人の周東さんのトークとコカリナの演奏です。

（新婦人 周東三和子さん）

新日本婦人の会狛江支部の周東と申します。世

界中の子どもたち、女性たちに平和をということで、色々な問題に取り組んでいます。今日は新婦人からのメッセージというよりは私がやっているコカリナという楽器があります。木で作った楽器です。このコカリナの木は色々な思い出、想いのこもった木で作られています。一番初めにコカリナを聞いたとき、それは広島の被ばく樹から作られたコカリナでした。長野オリンピックで切られてしまった木から作ったコカリナ、東京オリンピックで切られてしまった神宮外苑（学徒出陣の舞台）の木からのコカリナ、そして今、私が持っているコカリナは陸前高田の 1000 本松原、1 本だけ残ったあの 1 本松の周りに生えていた松から作ったコカリナです。

そういう想いのこもった木で作られたコカリナで曲を聴いていただきたい。いまから吹く曲は「日和山」で、コカリナ演奏家で有名な黒坂黒太郎さんが作曲したものです。日和山は石巻市の郊外にある 54.6mの低い山ですが、東日本大震災の時にはこの山に登って津波から避難し、多くの命が救われました。門脇小学校の児童も６年生が１年生の手を引き、泣きながら山を登りました。多くの市民を救った山です。それにちなんだ曲を聴いていただきます。

♪日和山♪　　https://www.youtube.com/watch?v=MQA5FqPfePc

日本では原発事故で故郷を追われてしまった人たちが、まだ８万人以上もいらっしゃるということです。いまウクライナでは沢山の市民が家を奪われ、殺され、隣の国に逃げ出しています。また元通り故郷に帰れるかどうか分かりません。その両方の方々の思いを込めて、「ふるさと」を吹きます。

♪ふるさと♪　　https://www.youtube.com/watch?v=BXdqpmfT4Xg

次は最年長（９８歳）の会員、気象研究者の増田さんです。

（会員 増田善信）

皆さん。こんにちは。和泉本町２丁目に住む増田善信です。今日は、東日本大震災によって発生した東京電力福島第 1 原発事故の問題と、ロシアのウクライナ侵攻の問題を話します。

今日、３月 11 日は東日本大震災と大津波、それに伴って発生した東京電力福島第１原発の大事故から１１年目の日です。先ず、この地震と津波で亡くなられた方々に、心からお悔やみと、今も故郷に帰れない避難者の皆さんにお見舞いを

申し上げます。

私は長年、地震と津波と原発の事故の問題を取り上げてきましたが、３・１１の約４か月前の 2010 年 12 月 6 日、この狛江駅の目と鼻の先の泉の森会館で「地震・津波と原発事故」と題して講演会を開き、特に津波の破壊力の恐ろしさを話しました。３・１１以後、多くの人から、「増田さんの予想したとおりになりましたね」と感謝されましたが、そんなことより、東電福島第１原発の１、２、３号機が次々とメルト・ダウンし、水素爆発まで起こし、住民全員を避難させなければならないほど強い放射能で汚染され、関東地方以北も広範囲に汚染され、私も研究発表しましたが、多数の小児甲状腺がんの子供が生まれたのです。

ところが、政府と電力会社は原発に固執し、再稼働さえ行っています。それだけでなく汚染水を海に流し、東北、北海道の太平洋の漁業を台無しにしようとしています。原発がなくても電気は十分賄えます。地球温暖化は再生可能エネルギーと省エネで完全に達成できます。原発ノー、火力発電ノーの声を広げて、温暖化を防止しようではありませんか。

次は、ロシアのウクライナ侵略です。先ず、ロシアに直ちに軍事行動を中止し、ウクライナから撤退することを要求します。とくに許せないのは、プーチンが核兵器を誇示して、核攻撃さえ公言していることです。それだけでなく、チェルノブイリなど原発を制圧したことも許せません。チェルノブイリは事故を起こして、３6 年。私は事故の 5 年後、10 年後、20 年後の 3 回、チェルノブイリを訪問しました。5 年後の時は、本当に驚きました、５年もたっているのに、5 分以上はおられないほど高い放射能に汚染されていたのです。事故後３6 年たった今でも、あの石棺の中には、原子炉の残骸のデブリが残っているのです。ミサイルなどが命中したら、また世界的な大惨事が起こるのは必至です。ところがロシア軍はチェルノブイリの他に 2 つの原発も制圧したと伝えられています。今日も同じ核施設の２回目の攻撃をしたと報じられています。危険極まりない行為と言わねばなりません。

ウクライナの原発は、旧ソ連型の黒鉛減速沸騰軽水圧力管型原子炉で、日本などの原発に比べて当時から制御が難しく、チェルノブイリの事故も制御に失敗して起こったものです。もし、ロシアのミサイルが命中したり、外部電源が無くなって冷却水が無くなったら、それこそ大変です。この点からもロシアのウクライナ侵攻を止めさせなければなりません。広島・長崎を体験した被爆国日本のすべての声を集めて、ロシアのウクライナ侵攻を止めさせましょう。

みなさん。ロシアのウクライナ侵攻は、政党やその責任者、政治家の立ち位置を焙り出すリトマス試験紙です。安倍晋三元首相や自民党の一部、日本維新の会、国民民主党は、この機会とばかりに、「憲法九条では日本は守れない」とか、「憲法を変えろ」などと叫んでいます。安倍晋三元首相に至っては、あるテレビ局の番組で「プーチンは領土的野心ではなく、ロシアの防衛、安全の確保で行動を起こした」と擁護したそうです。「国を守るためと言えば何でもできる」、憲法九条がある国で、こんなことが通ったら

大変です。

それだけでなく、安倍元首相は、元維新の会の橋下徹元大阪市長とともに、「米国の核兵器の共有（ニュークリア・シアリング)」にまで言及しています。

しかし、「敵基地攻撃能力」とか、核兵器共有が、核戦争にまで発展したらどうするのでしょう。広島・長崎では済まないと思います。

国連総会では１４１か国もの国がロシアのウクライナ侵略を非難する決議に賛成しました。私たちにできることは、戦争反対」、「ロシアはウクライナから手を引け」の国際的な世論を強めることと、ウクライナへの支援募金をすることです。日本共産党は、いち早く、募金を訴えたので、私はすぐ募金しましたが、今日の「しんぶん赤旗」によると、たった４日で、2024 万 5368 円集まり、昨日、早速、NNHCR(国連難民高等弁務官事務所)に届けたそうです。

「ロシアのウクライナ侵攻反対」の世論と、ウクライナ支援募金を広げに広げて、プーチンのウクラニア侵略を断念させようではありませんか。

次はうたごえの大熊さんです。

（シンガーソングライター 大熊啓さん）

狛江駅前ご通行中の皆さん、私たちは１１年前の３月１１日、曜日も同じ金曜日でしたね。まもなく、東日本大震災、その時を迎えます。私たちは震災の被害を忘れない、そして福島第一原発事故を忘れない、そして震災復興、何も終わっていない、あれから１１年間、自分が生まれ育った家を追われ、帰れない方が沢山います。特に福島の原発地域の近くでは、私の知り合いにも故郷にいつか帰る日を夢見ながら帰ることができないまま旅立ってしまった知人もおりました。つい先日の２月のことです。長い時が過ぎています。同時に今日はウクライナの国旗のカラーを掲げている方もいます、ロシア軍によるウクライナへの侵略が続いている、今まさにこうした宣伝行動をさせていただいています。

増田さんからお話がありましたが、ロシア軍はウクライナ国内の原発を攻撃しました。いまも原発に電力供給されているのか、水が補給されているのか、情報が錯綜している状況です。日本に住む私たちにとってみれば原発事故から１１年経ったこの時期に戦争の中で原発を標的にするというのは本当に許せない、胸が痛む、何てことをするんだろう、これは人類に対する戦争行為だと思いました。原発に何かあれば、ふるさと捨てて逃げなければいけないということを私たちは１１年前にイヤというほど経験したはずです。プーチン大統領は核兵器使用も辞さないということを言っています。これも許せません。まもなく東日本大震災発生の１１年目を迎えます。いまから１分間、あの津波

の被害、原発の被害を思って黙祷したいと思います。ご協力をお願いします。

―　黙祷　―

私は１１年前の大震災の時は中央公民館の地下のホールで歌声喫茶をやっていました。休憩をしようかという最中に、最初は一瞬、目まいかと思ったら、大きな揺れが来ました。地下ホールの窓から外を見たら、向かい側にあるマンションが何か柔らかいもので出来ているかのようなグニャグニャと曲がりながら揺れているのが見えました。そしてホールから見える池が一瞬に濁って、泡立って、ただ事ではないと感じました。
そして、今でも忘れませんよね、テレビに映された、家々が津波に飲まれていく映像、燃えた車が流されていく映像、私たちは遠くにいて何をすることもできない、ただただ人の命が失われていくのを見ることしかできない、というのを今でもはっきりと覚えています。
あれから１１年が経ち、テレビの映像を観ながら胸を痛める日々を送っています。ウクライナでロシア軍の侵略行為が続き、子どもたちも命の危険に怯えて、涙を流しながら死にたくない！と言っている映像も見えました。シェルターの中に避難して、そこで産まれた子どももいます。原発事故がウクライナで起きようものなら、多くの人々が故郷を失って帰れなくなります。そんなことを絶対に許してはいけません。
いまも故郷に帰れない人たち、福島とチェルノブイリの人たちのことを思いながら「風よふるさとよ」という歌を山形の仲間が作りました。歌いたいと思います。

♪風よふるさとよ♪
http://utagoenet.com/zenkokukyo/genpatsu/Kazeyofurusatoyo.html

今、戦禍に追われてウクライナのたくさんの人々が故郷を追われて国外に逃げなくてはいけない状況になっています。そして、あの日の震災以後、ふるさとに帰れない沢山の人々がこの国もいます。これ以上故郷を奪われる、こんなことは世界中であってはいけません。皆さんで声をあげて、平和の風を吹かせていきましょう。よろしくお願いします。ありがとうございました。

次は狛江母親連絡会の大久保さんです。
（母親連絡会 大久保高子さん）
みなさん　こんにちは。私はここ狛江で活動しています女性団体・狛江母親連絡会の大久保です。今日のこの日にこのような企画をされた「原発と気候危機を考える狛江の会」の皆さんに感謝申し上げます。そし

て、犠牲になられた方々に哀悼の意を表し被災された皆さんにお見舞い申し上げます。

まず最初に、みなさん「戦争は絶対にダメ！ただちにロシア軍は撤退を！」と声をあげましょう。救援募金にご協力ください。連日の報道に本当に心が痛みます。ロシア軍によるウクライナ侵略で、市民の方々の犠牲が拡大しています。そのほとんどが、女性や子どもと言われています。ウクライナ国内外の難民は、200 万人を超えたと報道されています。プーチン大統領は、核兵器の先制使用も辞さないとのべたことは、核兵器禁止条約が禁じた違法行為であり、人類と地球を破滅に導き絶対に許されません。ロシア政府に抗議をし、ただちに戦闘を中止しウクライナから軍の撤退を強く求めましょう。ご一緒に声をあげましょう。

そして今日はあの３・１１から１１ 年目です。私は仕事をしていました女性団体日本母親大会に全国から寄せられカンパを持って、2013 年から何度か被災地の岩手・宮城・福島を訪問しました。その当時の私が見た様子を少しお話しします。

岩手県宮古市では、田老町の漁業組合長さんは「二重になっていた防波堤をこえて津波が押し寄せ呑み込まれ、あっと言うまにがれきの町になった。目の前で仲間が…と言葉を詰まらせながら、でもどんな困難があっても海の恩恵のある限り生きていける。必ず復興させる」と話されました。**大槌町**では、高台から町の様子を見ましたが、かさあげ工事の機材は動いていましたが、ほとんどがれきとさら地で、建物など復興している様子は見えませんでした。**宮城県名取市**では多くの犠牲者が出て、その要因は津波警報の発表と避難を知らせる防災無線が鳴らなかったこと、市の指定の避難所からもっと高い所に誘導される途中に津波に巻き込まれて亡くなった人がいたことを聞きました。ほんとに聞いていて、思いもかけなかった突然のことの対応の難しさ、被災の大きさに聞いていて胸がしめつけられるようでした。**気仙沼**では、高台にある水産食品業者の社長さんは、「ここからみんなが走って山を登って避難してきているのを見ていながら、後ろから津波が押し寄せてきてね。どうすることも出来なくて無念だった。くやしかった」と話されました。

そして**福島**では、飯館村から南相馬、浪江町、富岡町を案内してもらいましたが、20 キロ圏内なので、町長さんの立ち入り通行許可証をもらってから入れました。

福島駅から飯館村に向かう道の田んぼには、放射能で汚染された土壌が詰め込まれている黒いフレコンバックが一面に置かれていました。最初何だろうと思いましたが、いたるところにあり、説明を聞いて驚きました。**南相馬市では、**４人の方がたにお話を伺いましたが、「放射能汚染で今だに自宅に帰れないし、故郷の家を壊して避難先にいく決心はつかない」「家の中はハクビシンや動物が入って荒れ放題。戻ることはできない」また、酪農をされていた方は、「牛はそのままで、水だけでやせ細ったあの姿は忘れられない。可哀想で」と泣きながら話されました。**浪江町から双葉町、富岡町に行く道**には、フレコンバックが積み上げられ、仮置き場や焼却施設もありました。20 キロ圏内に入ると警察官があちこちに立ち、国道は大型トラックが列をつくって走っていました。最後に町じゅうが避難している浪江町で一人残り、牛 300 頭とともに「原発を乗り越え

る世の中をめざす！」と牛の世話をしながら原発反対運動の先頭にたつ＜希望の牧場ふくしま＞の吉沢正己さんのお話を聞き、私たちに出来ることはやらないといけないと思いました。

日本母親大会は、毎年全国各地で大会を開いていますが、震災の年の 2011 年は広島県で開催し、のべ 16000 人の参加で「東日本大震災からの一日も早い復興のために」の特別決議をあげ、後日関係省庁に届けました。その大会には、女優の吉永小百合さんが原爆詩の朗読をされ、最初に吉永さんは、「３・１１大震災があり福島原発が大変なことになって、＜原子力の平和利用＞という言葉をあいまいにとらえていました。もっともっと原発のことを知っておくべきだったと思います。核兵器はなくなってほしい。原発はなくなってほしいと思っています。」と話され、参加者の感動をよびました。

被災地の復興と被災者の暮らしと生業の再建を、そして「お金がほしいんじゃない。ふるさとに帰りたいんだ」のこの福島の人びとの叫びを無視し、政府の原発推進のための福島切りすては許せません。原発ゼロをめざして、力をあわせましょう。発言を終わります。

（会員 西尾真人）

狛江駅周辺の皆さん、ご通行中の皆さん、今日は３月１１日、東日本大震災と原発事故が起きて１１年目に当たります。それを記念して集会をさせていただきました。福島の被災者は昨日のラジオで放送されましたように PTSD を患っている方が今も３０％もいます。こうした疾患を抱えて生活しています。津波被災者と比べても極めて多いのです。原発事故が如何に大きな影響を被災者に与えているか分かります。こうしたことを忘れないで支援活動をしていきたいと思います。また、ロシア軍によるウクライナの侵略があり、ウクライナ支援も兼ねて本日の集会をさせていただきました。皆さん、ありがとうございました。

以下は、トークのお願いをしていながら時間切れになってしまった方々のトーク原稿です。

（豊かな会 前土肥保さん）

今日３月 11 日は東日本大震災の発生から１１年。死者は１万 5,900 人、行方不明者は 2,523 人、さらに震災時は助かったのに傷病悪化などが原因の「災害関連死」は 3,784 人にのぼりました。

犠牲になられた方々に哀悼の意を表すとともに、被災者のみなさんにお見舞いを申し上げます。

被災から１１年経っても、全国の避難者は３万 8,139 人、福島第一原子力発電所事故の影響が大きかった福島県の一部では避難指示が続き、いまだに住民が帰還できません。

今日、原発と気候危機を考える狛江の会が「福島原発事故を忘れない！３・11 狛江駅前集会」を呼びかけたのも、３.11 大震災と福島第一原発事故を忘れない、その被害は今も続いていること、事故処理は混迷を極めていること、さらに処理汚染水の海洋放出や汚染土壌の利用など被害拡大につながることまで国と東電は計画・実施しており、同時に気候危機の問題はいますぐ対処しなければ地球の存続にも影響する大問題であること、日本政府の化石燃料・原発依存は早急にやめさせなければならないことをみなさんに考えていただきたいのです。

いま、予算を審議する通常国会が開かれています。ここで日本維新の会の議員が「小型原子炉を検討する時期がきている」と迫ると、岸田首相は「小型炉や高速炉をはじめとする革新原子力の開発などの取り組みを積極的に進めたい」と応じました。

同様に国民民主党の玉木代表も小型炉や高速炉の「実証実験に取り組むべきだ」と主張しています。いずれも「脱炭素社会のため」といいますが、本当でしょうか？

政府が昨年決定した第６次エネルギー基本計画は、2030 年までに高速炉開発の着実な推進、小型モジュール炉（ＳＭＲと略称）技術の実証を進めるとし、新年度予算案に 43 億５千万円の開発費を盛り込んでいます。

小型モジュール炉（ＳＭＲ）は一般に電気出力が３０万Ｋｗ以下で、パッケージとして製造されている小型炉の一種で、アメリカ、イギリス、カナダでは政府から多額の援助を得てほとんどが開発中だそうです。

脱炭素社会、温暖化対策をいうのなら、いま求められているのは世界の気温上昇を産業革命以前と比べて１.５度以下に抑えるために、温室効果ガスの排出を 2030 年までに 2010 年比で４５％削減し、2050 年頃までに実質ゼロにすることです。
昨年 11 月のＣＯＰ２６（国連の気候変動枠組み条約第 26 回締約国会議）では「この 10 年が徹底的に重要」だとして、この先の１０年に対策を加速する必要があると強調しました。

ところが、アメリカ原子力規制委員会の設計認証を得たニュースケール社の小型モジュール炉でも運転開始予定は 2029 年です。実現の目途や、時期も不確実なものに依存するのは、再生可能エネルギーをはじめ既存の温暖化対策普及を先送りするものではないでしょうか？

小型原子炉への関心が高まったいる背景には、原発に対する安全への要求が高まり、建設の長期化、費用の増大があり、初期投資の少ない小型炉に期待しているからです。

しかし、小型炉のコストが少なくなるのは 100 基、200 基と大量製造が前提です。また原発メーカーは「安全性が高い」ことを売りにしていますが、原子力の専門家でも元中央大学教授の館野淳さんは「小さいと事故を起こしてもコントロールはしやすいとはいえます。しかし本質的安全が高まったわけではなく、それぞれの原発の安全性の検証は不十分です。何より大規模な自然災害やテロなどを考慮する必要があります」と話し

ています。

原子力規制委員会の更田豊志委員長も「我が国で５％を超える濃縮度の燃料の利用が許されるのか」、「現行の再処理とは相いれない燃料を使う炉もある」と指摘し、全体像をみて「つじつまの合う議論」が必要と繰り返しています。

大きい小さいに関係なく、原発依存は最悪の環境破壊です。事故があれば放射能汚染、なくても使用済核燃料が増え続けます。原発とはきっぱりと手を切るべきです。

（会員 須貝光典）

2022 年 3 月 11 日-原発と気候危機-

狛江駅をご利用のみなさん、そしてご近所の皆さん、私は【原発と気候危機を考える狛江の会】の会員の一人で、和泉本町１丁目に住んでいます須貝といいます。

この場をお借りして、私は、気候危機の現状と 2030 年までに我々は何をしなければならないのかについて考えたいと思います。

世界各国の科学者でつくる国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」は、1990 年の第 1 次評価報告書にはじまりました。　昨年８月に気候変動の現状や今後の見通しに関する部分の第 6 次評価報告書を公表し、今年、２月 28 日には、「地球温暖化が、生態系や暮らしに与える影響に関する第二作業部会の報告書」を、8 年ぶりにまとめ、公表しました。

今回第二作業部会が出した報告書では「人類が引き起こした気候変動は、すでに広範囲の悪影響と損失を引き起こし、このままでは温暖化の進行が不可逆的になる」と結論づけました。

報告書の具体的な予測としては、「気温が 2 度上昇すると、洪水、干ばつ、海面上昇で移住を余儀なくされる人が増えるほか、暴力的な内戦につながる恐れ」もある、と指摘しました。2041 年～2100 年の中長期では、「気温の上昇幅が大きいほど生物の絶滅の危険が高まる」と予測しており、陸上生態系では、産業革命前から 1.5°Ｃの上昇で、最大 14％の種が非常に高い絶滅リスクに直面し、5°Ｃで 48％に増えるとしました。食料については、1.5°Ｃ以上の温暖化で、トウモロコシが様々な地域で同時に不作となるリスクが高まると予測。2°Ｃ上昇すると、多くの地域で主食作物を栽培できなくなるとの見通しを示しました。感染症の面では、デング熱などのように、アジアやヨーロッパなどの現在より広い地域で、今世紀末までに数十億人もの人たちをリスクにさらす恐れがあると、警告しています。

日本国内での研究でも、近年の魚や昆布などの不漁など、水産業の深刻化の要因の１つには、地球温暖化による潮流や水温の変化であることが分かっています。また、農業

では主食のコメですでに気温上昇による品質の低下などが確認され、2040年代には影響がより広がって、経済損失も増加するおそれがあると指摘しています。また、ミカンやリンゴ、ブドウなどの果樹の生育には気温が大きく関係するため、栽培する農家や産地は、気候変動の影響を強く受けるとしています。健康に関する分野でも、水温の上昇によって水中の細菌類が増加し、感染症のリスクが高まることも懸念される、としています。一方、災害面では、世界の平均気温が2度程度上昇した場合、国内で洪水が起きる確率がおよそ2倍になり、被害額は年間1兆4000億円を超えると予測しています。

日本は仏、英、独、加(カナダ)、米国のように、二酸化炭素排出ゼロを目指すための、石炭火力の廃止などの、期限をもうけていません。そして、岸田首相は、「水素、アンモニアやCCUS(二酸化炭素回収・利用・貯蔵:Carbon dioxide capture, utilization, and storage)技術を活用して、石炭火力を脱炭素型の火力に置き換える。」などと、石炭火力を延命しようとしているのが現状です。また、老朽原発の再稼働もあきらめておらず、小型モジュール炉などの開発にも予算を付けているのは問題だと思います。国民民主党などは、今回のロシアのウクライナ侵略でエネルギー供給が危うくなるからと、原発再稼働を政府に求め出しましたが、せっかく停止している原発を再稼働するのは反対です。

日本政府は、気温上昇を、産業革命前から見て、1.5°C以内に抑えるために、脱石炭と再エネ・省エネの普及に予算を使って、2050年カーボンニュートラルの達成に努力して欲しいと思います。そのためにも、脱石炭と再エネ・省エネの努力を、政府だけに任せておくのではなく、私たち自身が意識を変えて、社会の変革に積極的な態度を取れるように活動していく必要があると思います。

以上です。ありがとうございました。